

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合  
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表  
(2024年7月分)

ご協力ありがとうございました。2024年7月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 142 回答 136 回答率 95.8%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	17社	27社	39社	32社	22社	137社
	12.4%	19.7%	28.5%	23.4%	16.1%	
	(9.6)	(18.5)	(30.4)	(21.5)	(20.0)	
売上高	18社	37社	30社	29社	22社	136社
	13.2%	27.2%	22.1%	21.3%	16.2%	
	(11.1)	(18.5)	(32.6)	(17.0)	(20.7)	
在庫数量	13社	19社	65社	26社	9社	132社
	9.8%	14.4%	49.2%	19.7%	6.8%	
	(10.0)	(18.5)	(43.1)	(20.0)	(8.5)	
販売単価	8社	34社	73社	18社	2社	135社
	5.9%	25.2%	54.1%	13.3%	1.5%	
	(4.5)	(22.4)	(60.4)	(11.9)	(0.7)	
収益状況 (粗利)	16社	23社	50社	29社	16社	134社
	11.9%	17.2%	37.3%	21.6%	11.9%	
	(8.9)	(17.0)	(39.3)	(23.0)	(11.9)	
稼働率 (生産・加工設備)	3社	25社	50社	30社	10社	118社
	2.5%	21.2%	42.4%	25.4%	8.5%	
	(3.5)	(15.7)	(40.9)	(28.7)	(11.3)	
入出庫の トラック台数	5社	24社	61社	29社	12社	131社
	3.8%	18.3%	46.6%	22.1%	9.2%	
	(3.1)	(10.7)	(44.3)	(29.8)	(12.2)	
現在の 景況感	1社	9社	63社	34社	29社	136社
	0.7%	6.6%	46.3%	25.0%	21.3%	
	(0.0)	(4.5)	(37.3)	(42.5)	(15.7)	
3ヶ月後の 景況予測	1社	20社	92社	19社	3社	135社
	0.7%	14.8%	68.1%	14.1%	2.2%	
	(0.0)	(15.7)	(65.7)	(17.2)	(1.5)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります  
②( )内の数字は前月のパーセントです  
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は  
特記事項欄に別途記載いたします  
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください  
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

# 景況実感調査(2024年7月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置きます。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

## 薄板・表面処理鋼板

- ① 7月は前年並みの数量に回復。世界経済減速により、トラックメーカーは輸出向けの在庫調整を行っていたが7月から回復。全般的に需要回復の兆しはなく、現状維持が精一杯である。今後、ユーザーの調達品は環境優先へと加速すると思われるので、グリーン鋼材をアピールしていきたい。
- ② 7月の販売数量は前年同期比96.6%。稼働日が2日多いにもかかわらず減っている(日当たり販売量87.5%)。日当たり販売量がここ数カ月、数パーセントずつ減り続けており、底が見えない恐怖感が漂っている。
- ③ 自動車、建機、農機、建築など広い分野で鈍いため、販売に注力しないといけない。少なくとも今年度はその覚悟が必要と考える。
- ④ 依然として荷動きは悪いものの、盆前の案件が進み売上と稼働は確保できた。日割りでは前月よりどの数字も良くなり、秋に向けての準備を進めていきたい。

## 中板

- ① 中板においては依然として末端需要に勢いがなく、具体的な案件も聞こえてこない状況から、各社とも当用買いに徹しており低調で推移。価格も弱含みの状況が続いており、引合いの薄さから更なる安値の引き受けも散見される。

## 厚板

- ① 建設機械は減産の機種も多くなってきて、売上も減少している。店売り関連は人手不足の影響や輸送の問題等もあり、売上が減少している。
- ② 橋梁分野では、保留物件の解除が始まり受注物件が増えてきた。一部の客先では年明けまで受注しており、使用する材料のスケジュール打ち合わせが始まった。
- ③ <全体感>厚板需要は引き続き低位横這いで推移しており、全分野で需要が停滞している。スポット的な引合いはもとより、連休前の繁忙感も薄く、荷動きはもちろん、稼働も総じて低い状況。原材料価格やスクラップ価格の下落による先行き不透明感も強い。<分野別>建設機械は計画的な生産調整が引き続き行われており、しばらくは時間がかかる様相。産業機械においても需要の減退に伴う在庫調整が思うように進まず、同じく低位横這いが予想される。いずれの分野も、ここに来ての円高の影響も懸念される。店売り分野も引き続き低位横這いとなっており、当用買的な需要は少なく、荷動きは低い状況。

## — 舟安开形鋼 ・ I-I 开形鋼

- ① 前年同月は営業日数 20 日で、本年 7 月は 22 日と 2 日多い分だけ各調査項目は好転。本年前月比も然り。来月 8 月は夏休みで営業日数は 17 日に減少するので如何に凌ぐかは販売強化しかない。結果、需要の好転がなければ市況の下落を招く。
- ② 再開発の物件はあるが、職人不足で進んで行かない。運送関係も人手不足。
- ③ 需要に満足感が無いのは皆同じ。過去の実績にとらわれず期待値ではなく、需要に則した慎重な在庫政策に徹する。その上で、社会的コスト増に目を背けず、皆で立ち向かうべきだ。

## 異形棒鋼

- ① 7 月は酷暑が続き、売上は前月(6 月)より減少したが、前年同月比はやや増加した。盛り上がりは相変わらず無く、小口取引の積み重ねで何とか生計を立てている。
- ② 7 月は動いた。春から動かなかった反動と 8 月休み前の駆け込みがあった。8 月は低位になるが気持ち的には楽。相場は横這い。

## 平鋼

- ① 7 月の売上は、6 月後半からの低調ムードのまま突入し、回復しないまま 8 月になってしまった。先月と同様で、電話やメール、FAX の数も減少している。工場の加工数量も 5 月をピークに減少している。8 月も工場の山積みは低いが、お盆休み前の細かい駆け込み需要が多いものの量は伸びない。9 月以降の物件情報の収集に徹していく。

## 軽量形鋼

- ① 生産量、売上ともに微増。9 月末までは大きな減少はないと思われるが、秋以降は不透明な状況。
- ② 7 月の店売りは営業日数の多さに救われたが、日当たりではマイナスの状況。日々の商売が一段と悪くなった印象で、苦しい状況に変わりない。

## 鋼管

- ① 6 月に比べて日割り出荷は減少傾向であり、総じて景況感は悪い。高炉品については価格転嫁中であるが、厳しい状況が続いている。
- ② 第 2Q がスタートしたが、荷動きの活発化はなく、第 1Q と景況感に変化はない。8 月も夏季連休を控えて建設物件向け出荷の停滞は必至であり、秋口まで期待薄とみる。

## 構造用鋼

- ① 需要については、自動車関連で認証不正問題の影響により回復時期の不透明感が強まる。建機需要は落ち込みが長期化。産機全般では不透明だが、半導体関連は需要回復への期待感あり。店売り在庫は概ね適正。価格はメーカー値上げ及び物流費他諸コスト上昇分を受け、トン 1 万 5 千円以上の価格転嫁を実施。客先への値上げはほぼ完了した。

## 磨き棒鋼

- ① 販売価格値上げ後の反動により、店売り品の出荷が大きく落ち込む。自動車、建機向けの紐付き品は相変わらず調整局面が続く。中国での自動車販売が不振であることが大きく影響している模様。今後も回復の兆しは見え、今期中は今のペースで進むものと思われる。

## その他

### <異形バーインコイル・ナマシ鉄線>

- ① 依然として荷動きは低調。諸々のコストアップを価格に転嫁したいところだが道半ば。厳しい状況が続いている。

### <敷鉄板リース>

- ① 敷鉄板リースに関しては、出荷よりも入庫が多く稼働率は下がっている。秋需に向けて入庫した鉄板の整備を進めていく。

### <鉄スクラップ>

- ① ここ最近のスクラップ市況は、需給バランスではなく為替の変動に敏感に反応している。7月は急激なドル円相場の円高進行により輸出環境が弱気となったため、国内相場は続落した。イレギュラーな状況化での相場は更に不透明だが、様子見が続くと思われる。

### <金属表面処理>

- ① 紐付き、スポット共に予定通り。夏季対策を実施しているが、暑すぎて操業が上がらない。

### <その他>

- ① 日銀の利上げによる上田ショックで本年後半は過去に例がないほど荷動きは悪くなると思われる。日銀発の世界恐慌に突入したと思われる。